

■ 令和2年度 第3回 いきいき西区ささえあいプラン推進委員会

日 時：令和3年2月18日（木）午前10時～

会 場：西新潟市民会館2階 多目的ホール

（司 会）

これより、令和2年度第3回いきいき西区ささえあいプラン推進委員会を開会いたします。  
本日の司会を務めさせていただきます、西区健康福祉課、課長補佐の田中でございます。  
よろしくお願いいたします。

開催案内でもお知らせいたしましたが、今回はいきいき西区ささえあいプラン推進委員会  
開催要項第5条第2項の規定により、地域コミュニティ協議会の会長様にもご同席いただき  
ました。地域コミュニティ協議会会長様からも忌憚のないご意見を賜りたいと存じます。

なお、本日は小竹委員と西内野コミュニティ協議会の寺瀬会長から欠席の連絡がありました  
ので、ご報告いたします。また、出席者名簿には記載がございませんが、小針小学校区コ  
ミュニティ協議会から北村様ご出席です。

本会のご発言は録音させていただきます、後日、会議録として公開させていただきますので、  
よろしくお願いいたします。

なお、会場についてですが、こちらの会場は飲食禁止となっております。お飲み物を飲ま  
れる場合はロビーでお願いいたします。

会議に入ります前に、本日の会議資料のご確認をお願いいたします。お手元にお配りしま  
した資料1点目、本日の次第、2点目、出席者名簿、3点目、資料1「第3次いきいき西区  
ささえあいプラン」（素案）に対するパブリックコメント（市民意見募集）手続きの実施結  
果について、4点目、資料2-1「第3次いきいき西区ささえあいプラン」冊子、5点目、  
資料2-2「第3次いきいき西区ささえあいプラン」冊子概要版、6点目、資料2-3「第  
3次いきいき西区ささえあいプラン」簡易版、こちらはA3の1枚のものを二つ折りにした  
ものです。皆様、よろしいでしょうか。

次第に沿って進めさせていただきます。はじめに、西区長の笠原よりごあいさつ申し上げ  
ます。

（区 長）

皆様、こんにちは。コロナ禍の中ではございますが、久々に皆様一堂に会してお会い  
できますことに、本当に、心から嬉しく思っております。

本日は、皆様、お忙しいところ、第3回いきいき西区ささえあいプラン推進委員会にご出

席を賜りまして、誠にありがとうございます。皆様には、日ごろから、それぞれの地域におきまして、地域福祉を進めますため、さまざまな事業などに取り組んでいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

本日は、推進委員の皆様のほかに、コミュニティ協議会の会長様にもご参加いただきました。

本プランの策定にあたりましては、これまで、7月と11月に推進委員の皆様、コミュニティ協議会の会長の皆様にそれぞれご説明させていただきましたが、このたび、パブリックコメントを経まして計画の確定案を作成いたしましたので、本日、一堂に会してお集まりいただきましたところでございます。

現在、コロナ禍の中、区民の皆様とのつながりを維持し、支え合い、住み慣れた地域で笑顔で過ごしていただけるよう、地域の皆様と区、社会福祉協議会などの関係機関がお互いの力を合わせて取組んでいくということが大切になっております。

本日のプランの冊子の中の私のごあいさつでも書かせていただきましたが、区の高齢者福祉や障がい福祉、児童福祉、健康増進といった各分野の制度を縦糸といたしますと、地域という共通の横糸で織りなし、西区の地域福祉を推進してまいりますのがこのプランであると考えており、本日の確定案が作成できましたことに、皆様のお力添えに心より感謝しております。

さて、1月の大雪の際には、バス路線や幹線道路のほか、生活道路の除雪が遅れ、皆様にも大変なご迷惑をおかけいたしましたことにお詫び申し上げます。区も、3連休を返上いたしまして連日連夜、除雪作業に取り組みましたが、そうした中で、地域では、日ごろのつながりを生かし、皆様で道路や歩道の除雪をはじめ、様子をうかがう声かけがなされたり、心配な方のご自宅前の除雪を協力して行っていただくなどの活動も行われていたと伺っており、改めて区民の皆様に感謝申し上げる次第でございます。

また、1月11日から15日には大雪時の一人暮らし高齢者等生活相談窓口を開設いたしましたが、寄せられたご相談について、自治会長様や民生委員様からご協力をいただくなど、地域の皆様と連携してスムーズな対応ができましたことにも深く御礼申し上げます。

今回のプランは、それぞれの地域で地域別計画を策定いただきましたが、各地区で進められた懇談会でも、日ごろからのつながりがいかに大切であるか、皆様の熱心なご議論を改めてお聞きすることができました。今回の大雪のようないざという時の支え合いのためにも、西区といたしましても、地域の皆様のお声を大切に寄り添いながら、引き続き取り組んでまいりますので、皆様方のお力添えをぜひともお願い申し上げます。

結びに、本日、ご出席の皆様のご健康とご活躍を、そして区民の皆様方が住み慣れた地域

で笑顔で過ごしていただけますことをご祈念申し上げまして、開会のあいさつとさせていただきます。どうぞ、本日はよろしくようお願い申し上げます。

(司 会)

続きまして、当推進委員会、五十嵐委員長よりごあいさつをお願いいたします。

(五十嵐委員長)

皆様、おはようございます。委員長の五十嵐です。今ほど笠原区長からもおっしゃっていただきましたけれども、皆様には、このコロナ禍で、さらに大雪で、孤立しがちな方がより孤立してしまうのではないかという懸念の中で、さまざまな知恵を絞っていただいたり、汗を流していただいたり、心から感謝の気持ちでいっぱいでございます。また、職員の皆様、社会福祉協議会の皆様におかれましても、コロナ禍ですごく日々大変なお仕事をされていらっしゃると思います。本当にありがとうございます。その中で、このようにみんなが集う場をご準備いただきまして、本当にありがとうございます。私などは毎日職場には行くのですが、パソコンの画面上でしか人を見ていないので、リアルに皆さんの顔を拝見するのは本当に、素直に嬉しいというか、やはりリアルに人が会うということは大事なのだということをお話を今、皆様とお話しているわけではないのですが、それを実感しております。

今日またお昼までの長丁場となりますけれども、皆様、どうぞよろしくようお願いいたします。

(司 会)

ありがとうございました。

これより議事進行に移ります。推進委員会開催要綱第4条第2項により、五十嵐委員長に議事進行をお願いいたします。

(五十嵐委員長)

私のほうで議事を進めさせていただきます。

議題(1)「パブリックコメントの結果報告について」、事務局よりご説明をよろしくお願いいたします。

(事務局：小林係長)

皆様、おはようございます。西区健康福祉課地域福祉係の小林です。皆様にはいつも大変お世話になっております。ご説明させていただきます。

資料につきましては、資料1「第3次いきいき西区ささえあいプラン」(素案)に対するパブリックコメント(市民意見募集)手続きの実施結果についてと書かれた資料をご覧ください。

令和2年12月21日から令和3年1月19日までを募集期間とし、第3次いきいき西区ささえあいプランの素案に対するパブリックコメントを行いました。ご意見の提出状況につき

ましては、提出者数1名、意見数2件という結果になりました。いただいたご意見と回答につきましては裏面をご覧ください。

ご意見の一つ目は「読んだ区民が理解しやすいように配慮がされ、分かり易く丁寧に作られたプランになっており、好感の持てる内容となっていた。多くの区民が自分の事と捉え、本プランを読む事を強く望む。」というものでした。こちらのご意見に対する回答は、右に記載のとおりでございます。「これからも、区民の皆様にも本プランについて知っていただけるよう周知してまいります」と書かせていただいております。

次に、二つ目のご意見ですが、「計画は全区民のものであるため、区長・社会福祉協議会会長のあいさつ（意思表示）は不要であると思う。」というものでした。こちらは、本来意見募集の対象外のページでしたけれども、このご意見を受けまして追加したページがございましたので、次のとおり回答いたしました。読み上げさせていただきます。「ご意見ありがとうございます。該当箇所は意見募集対象外のページとなりますが、ご意見を受け、『計画に携わった方々からのメッセージ』として、幅広い区民の方々による本プランへの思いを、区長と社会福祉協議会会長のあいさつと合わせて掲載することといたしました。」という回答にしまして結果を公表する予定でございます。

なお、結果の公表につきましては、表面の2、広報手段に記載のとおりの方法で、令和3年3月1日に行う予定です。

パブリックコメント実施結果についてのご説明は以上です。

（五十嵐委員長）

ありがとうございました。今ほどの事務局からのご説明にご質問がある方はいらっしゃいますでしょうか。発言される方は挙手の上、お名前をおっしゃっていただきまして、マイクが来るのをお待ちください。どなたか、いかがですか。

（異議なし）

（五十嵐委員長）

ありがとうございます。次に進ませていただきたいと思います。

議題（2）「西区地域福祉計画の確定計画案」について、事務局から説明をお願いいたします。

（事務局：小林係長）

引き続き、私からご説明いたします。

資料につきましては、資料2-1「第3次いきいき西区ささえあいプラン冊子」をご覧ください。なお、こちらはコピーとなりますので、若干の色あせがございますがご容赦いただきたいと思っております。また、こちらは以前にも皆様からご覧いただいておりますので、ご説明

につきましては、そのときから変更したところ、追加したページを中心にご説明させていただきます。また、第5章「西区地域福祉活動計画」につきましては、次の議題（3）で社会福祉協議会からご説明いたします。また、全体の冊子レイアウトにつきましては、現在、印刷業者と打ち合わせをしているところでございますので、今後、多少の変更がありうることをご了承ください。

1 ページをお開きください。先ほどパブリックコメントでの回答でもお話いたしました、区長、そして社会福祉協議会会長のあいさつの前のページに、計画に携わった方々からいただいたメッセージを掲載いたしました。私どもも各地区の懇談会にお邪魔しまして、地域の皆様方の計画づくりの様子を拝見させていただきました。各地区では熱心なご議論が繰り広げられ、少しでも皆様の思いをお届けできればと考え、このように、主に地区懇談会のときにいただきましたご意見やご感想をメッセージとして掲載させていただいたものです。

続きまして、2 ページをご覧ください。こちらは西区長と西区社会福祉協議会会長のあいさつのページです。1 点、誤植がありますのでお知らせいたします。区長のあいさつ文の7 行目ですが、「西区の地域福祉を推進していくのが、本プランです」という部分の「くのが、本プランです。」というように文字が二重に記載されておりますので、完成版の印刷の際はこちらは修正させていただきます。お時間の関係もありますので、ほかの内容を読み上げることはいたしません、後ほどご確認いただければと思います。

続きまして、8 ページをご覧ください。章変わりのページ前の空きページを利用して、トピックスとして記事を掲載しております。ここで紹介している地域の取組みにつきましては、令和2年度の西区だよりに掲載された取組みをピックアップしたものでございます。

次のページから第2章になりますが、第2章は以前と変更がありませんので割愛させていただきます。

ページが飛びますが、38 ページをご覧ください、先ほどと同様、章変わりの前の空きページを利用したページになります。ここでは、令和2年11月に行われました西区アートフェスティバルで展示されました障がいのある方による作品をご紹介します。このページを作品紹介1といたしまして、56 ページに作品紹介2を、90 ページに作品紹介3を掲載いたしました。

99 ページをご覧ください。区や社会福祉協議会の取組みではありませんが、今年度、西区自治協議会で支え合いの大切さを広める標語を募集されました。支え合いの大切さを啓発するすばらしい取組みでございましたので、こちらのページに入賞作品を掲載させていただきました。

確定計画案につきましては、以上でご説明を終わります。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。皆様からご質問はありますでしょうか。よろしいでしょうか。ご意見等、ございませんか。

ありがとうございます。地域福祉計画についてはこの内容で確定となります。ありがとうございました。

次に進めたいと思います。議題（3）「西区地域福祉活動計画」について、事務局よりご説明をよろしくお願いします。

(社会福祉協議会：鍋谷補佐)

いつもお世話になっております。西区社会福祉協議会の鍋谷です。説明いたします。

57 ページの第5章をご覧ください。第5章の表紙がありまして、1枚めくってください。58 ページ、59 ページをご覧ください。

58 ページには、地域福祉活動についての説明、策定のための地区懇談会のことや、そのときの写真を掲載しました。

59 ページは、15 の地区を示す地図を載せまして、以前いただきましたご意見を採用させていただき、小中学校の位置を水色、ピンクの丸印でお示ししております。地図の下の表は、番号と校区名、掲載されているページ数を載せてあります。

1枚おめくりください。60 ページから、見開き2ページずつ、地域の皆様に策定していただいた地域別計画が入っております。左側のページは、まず地区名、校区名がタイトルとして入っておりまして、その右側に人口や世帯数、高齢化率などのデータが入っています。こちらの人口、世帯数、高齢化率、14歳以下の人口など、一部データが間違っているところがありますので、ここについては私どもで最終的に確認して正しい数字を載せたいと思います。今、内野小学校区と西内野小学校区、坂井輪中学校区と小新中学校区が同じようなデータが入っているところがあります。その下に地域の特色、この地区の良いところ、この地域の課題が入りまして、その下に取組みが入っています。見開き右側のページですが、目標・目指す姿、スローガンが最初にありまして、その下にいくつかの基本目標とそれを達成するための取組みが載っています。スペースがある校区につきましては、地域活動の様子の写真が入っております。

何度も話し合いを重ねていただきまして、確認していただいた地域の計画です。本当にありがとうございました。このあと、4番で各地区の推進委員の皆様からご報告をしていただきます。

社会福祉協議会は、令和3年度からは、最低でも年1回は地域の皆様と集まる機会をつくらせていただき、計画の進捗状況を確認したり、今年度はこの取組みを重点的に進めていこ

うなどといったことを話し合っていきたいと考えております。時期は、その年の振り返りをして次年度の取組みにつながるように、毎年 12 月から 2 月ごろを予定しております。参加メンバーですけれども、コミュニティ協議会の会長様やプラン推進委員の皆様、地区社会福祉協議会、計画策定に協力してくださった皆様、生活圏域の支え合いのしくみづくり推進員、社会福祉協議会職員などを考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

また、来年度の計画取組みにつきましては、もう 2 月中旬ですので懇談会のような規模では難しいと考えておまして、推進委員の皆様やコミュニティ協議会の会長様などに個別にお声がけさせていただきまして、相談させていただこうと考えております。

また、例年、1 年ごとに計画の振り返りを推進委員の皆様にもまとめていただいております。昨年度、5 年間の振り返りシートをまとめていただきました。今年度で第 2 次の 6 年間の終わるわけですが、昨年春に 5 年間分をまとめていただいたことと、この計画を作るときに、これまでの取組みを含めて課題や目標を考えて話し合っていたので、それが地域の計画として完成しましたので、6 年分のまとめについては、今回、取りまとめや提出は不要と私たちは考えております。

ご説明は以上となります。

(五十嵐委員長)

どうもありがとうございました。今ほどの事務局からのご説明に対して、ご質問、ご意見等はございますでしょうか。特にならなければ、次に進めてよろしいですか。

(異議なし)

(五十嵐委員長)

ありがとうございます。

議題(4)「地域別計画の発表について」、事務局からお願いいたします。

(社会福祉協議会：鍋谷補佐)

今、60 ページを開いていただいていると思うのですが、内野小学校区から順番に、各地区選出の推進委員の皆様から発表をしていただきたいと思います。見開き 2 ページ全部を説明すると時間の関係で難しいですので、主に見開き右側のページの目標、スローガンのところ、それから基本目標や達成のための取組みについて重点的に発表をお願いいたします。1 地区、2 分程度でお願いしたいと思います。また、本日推進委員の方がご欠席のところはコミュニティ協議会の会長様より発表をお願いいたします。

内野小学校区からお願いいたします。

(原委員)

内野小学校区推進委員の原といいます。よろしくお願いいたします。時間もないので、簡単に

取組みの説明をさせていただきたいと思います。

まず1番の目標というか、「こんなまちにしたい」という部分は、今の世の中は絆という部分が一番大切だろうということで、その辺を軸に「みんなでつくろう！思いやりと支え合いのまち うちの」ということで、決めたのは内野の自治会、あとは五つの部があるのですけれどもその部長とか役員会の場で取り決めました。

それを実行するために、目的を達成するために何をするかという部分なのですけれども、①「顔の見える関係づくり」。ここでも絆が出ていますけれども、その部分で、①の一番上の「自治会行事や地域イベントを通じて、ふれあいや関係づくりの場をさらに設ける」。これをやることによって絆が深まっていくのではないかと考えています。もう一つは、だれでも参加できる地域の茶の間とかサロンとか、趣味の集いというか、そういう部分で、その部分がある程度重点的にやっていきたいということであげさせてもらっています。あまりたくさん上げても実行が伴わないと仕方がないので、数を絞った中でやっていきますので、よろしくをお願いします。

2番目ですけれども、「話し合い・助け合いによる地域力アップ」。ここで特にとりわけという部分は、一番目の「支援を必要とする人を孤立させないように地域全体で見守る」、それから「避難行動要支援者の支援体制をつくる」。この部分は、町内によっては出来上がっているところもありますけれども、まだまだというところもあるので、その辺もこの3次計画の中で完結していければいいのではないかと考えています。

3番目、「地域活動の担い手の発掘・育成」の部分ですけれども、今、高齢化の社会ですけれども、退職してもやる人がいない人、いろいろな人もいるという部分、「年代や体力に応じた地域貢献活動の人材発掘と育成」ということが一番ではないかということで、それから、下の、子どもたち、小学生や中学生からのアイデアといいますか、昨日、一昨日でしょうか、小学校のパートナーシップ推進会議に出たときに、小学校とか中学校でも、総合学習で、まちをよくするにはどうするかということで、アイデアとかいろいろな部分が出ているものもあるので、そういうことを参考にして、子どもたちが「内野をこんなまちにしたい」というところを汲んだような形でやっていければいいのではないかと考えています。

それから、内野は小中学校だけではなくて新潟大学も控えているので、その部分、大学生、参加してくれているところも結構ありますけれども、そういうところも人材、担い手として使っていければ一番いいのではないかと考えております。

内野としてはそういうところですか。会長から補足は。いいですか。そういうところでお願いします。



(社会福祉協議会：鍋谷補佐)

原委員、ありがとうございました。

62 ページ、西内野小学校区、お願いいたします。

(板井委員)

西内野コミュニティ協議会の推進委員の板井といたします。よろしくをお願いいたします。

今回の懇談会の皆様は、16名の委員をお願いしました。4回の懇談会を経て、2025年に向けた西内野小学校区の目標・目指す姿を作成いたしました。スローガンを申し上げますと、「世代を超えて支えあう 安心・住みよい地域づくり～ひとりひとりが輝く西内野～」です。目標を達成するために、具体的な取組みとして3点あります。①「誰もが困った時に助けあえる地域づくり」、②「地域活動に参加しやすい場づくり」、③「新し人材発掘・地域リーダーづくり」です。

その中で、具体的な内容を一つ申し上げますと、②の地域活動の中で、西内野地域のホームページを開設し、小学校区、自治会、また小学校区間での情報を提供し合いながら、地域、学校、保護者間で課題と問題の共有を図りたいと考えております。そして、西内野は、地域で子育てするという意識が高いところですので、将来を見据えて子育て支援、子育てに対する環境整備、例えば子育て交流施設の必要性を感じております。また、人口が減少し、高齢化が高まり、お互いに助けが必要になってきます。今よりももっと地域内での人のかかわりが多くなり、自然な形で助け合いのできるまちが必要となってくるのではないのでしょうか。地域活動にみんなで参加、みんなで運営、やれる人がやれるときにやれることをするということになります。

そして最後になりますけれども、今回、この取りまとめた支え合いの文章は、西内野コミュニティだより 37号で小学校区全世帯、3,750くらいありますが、全世帯に配布して情報の共有を行いました。

(社会福祉協議会：鍋谷補佐)

板井委員、ありがとうございました。

64 ページ、中野小屋中学校区、お願いします。

(大島委員)

中野小屋中学校区、大島です。目標と目指す姿は「世代をこえて つながるまち 中野小屋」。中野小屋が西区のはずれのほうにありまして、18の集落でできています。毎年、親子三代ふれあい会や瑞穂祭。親子三代ふれあい会は、芸能会を兼ねて、地区の小中学校の児童、それと保育園、3保育園ありますけれども、その方にご協力いただき、あそか園の方とか、みのり園とか、みずほ園、皆さんに協力して出席してもらいましてやるのですけれども、昨

年はコロナ禍で何も事業ができなかったのですけれども、今回は中野小屋地区を発展させたいということで、今度、会議に中学生を交えてはどうかという話が出まして進んでいるとのこと。以上が「親子三代ふれあい会や瑞穂祭の活性化」です。

「地域の魅力を発信し、『住みたい、住み続けたい』地域に」は、子どもの児童数が少なくなっているので行事ができないという話も出たのですけれども、なかなかはっきりというか、そういう目途が立たない。

あと「後継者・担い手を発掘し、全ての世代が主体的に参加できる地域に」。結構若い人が出て行くのが多いというか、過疎になりがちな地区なので、それを何とかしようということとで始まりました。

最後の「高齢者がつながりを持ちながら、いきいきと過ごせる地域づくり」。地域の茶の間とかいろいろな取組みを始めているので、これからは少し取り組みたいと、皆さん、そういうことでまとまりました。

(コミュニティ中野小屋：真嶋会長)

私どもの地域はほとんどの家庭が兼業農家でございまして、皆さん、非常に忙しい思いをされて過ごされておられます。加えて、皆さん、どなたもそう言っておられますけれども、郷土という面では他の地区に引けを取らないくらい助け合いが充実した地域ではないかと思っております。その中で、いろいろなテーマを持ちながら今回も議論したわけなのですけれども、このような形にまとまりました。

先ほど、若い人の意見ということで少しありましたけれども、2月のはじめに、テーマになっておりました、中学生などの若い意見をということで、中学校に出向きまして、了解を取って、会に出てもらうような体制を取ってもらうということになっております。これから少しずつマンネリ化を打破していきたい、新しいものも取り入れていきたいと思っておりますので、いろいろな面でご指導をお願いいたします。ありがとうございます。

(社会福祉協議会：鍋谷補佐)

大島委員、真嶋会長、ありがとうございました。

66 ページ、赤塚中学校区、お願いします。

(伊藤委員)

赤塚中学校区の推進委員の伊藤です。

作成のための懇談会は、地区の民生委員を中心に 10 名弱で集まって、各地区でよいところ、さらによくするためにはというテーマで話し合いをしました。皆さんの地区への思いがあふれる、活発な懇談会となりました。

それを受けて、目標を決めました。目標・目指す姿は「お互いの地域が支え合い、ひとつ

になろう！」ということで、赤塚中学校区は大きく四つの地区が合わさっているのですが、やはり地区によって実情とか課題が違う中、まずはそれぞれの地区の情報を共有して、それを自分たちの地区ではどういった形がいいかとヒントをもらいながら取り組んでいくということで、このようになりました。1の「地域それぞれの特色を生かし、地域間の交流を活発化する」ということで、今のように、それぞれの情報を共有していこうということです。

2番目の「多世代の顔の見える関係づくり」では、各地区の祭りなどのイベントがほかの地区には情報がっていないということで、その地区だけで終わらずに、ほかの地区にも積極的に周知して、こういうイベントをとおして交流していこうということです。イベントなのですけれども、かつてはやっていただけでも人材がいなくなってできなくなったイベントなどの復活や、どんな世代でも楽しめるようなイベントを創設して、企画の段階から若い世代と一緒に作っていくことがいいのではないかという意見で、それが多世代の顔の見える関係づくりにつながっていくと思い、ここに書かせていただきました。

3番目に「話し合い・助け合いによる地域づくり」ということで、自治会やコミュニティ協議会の広報を工夫して、中学校区内のいろいろな地区のイベントや課題を住民が共有できるように検討を実施していく。それから、顔の見える関係づくりの活動をとおして、支援を必要としているところを把握して、地域で何ができるか支援を検討、実施していくということで、この作成のための懇談会がとてもよかったので、今後も定期的にコミュニティ協議会単位の話し合いをしていくことをとおして、話し合いをしてよい地域づくりができるのではないかと、この最後に載せさせていただきました。

決まったプランについては、今月発行済みのコミ協だよりに掲載しております。

(社会福祉協議会：鍋谷補佐)

伊藤委員、ありがとうございました。

68 ページ、坂井輪中学校区、お願いします。

(小林委員)

坂井輪中学校まちづくり協議会推進委員の小林です。よろしく願いいたします。

ページを見ていただくと分かると思いますが、まず目標で「みんなが主役 つながれ・つながるまち さかい輪」ということで、私ども、3回の会議をまちづくり協議会全般からいろいろな方、多世代、いろいろな立場の方で、多くの意見をいただきながら、会議のときが一番充実して今回この目標ができたと思います。

まず1番目に「地域に関心を持ってもらい、つながりを強める」。下に列記してありますけれども、繋がりを強めながら、それによって、2番の「3世代が交流し、支え合う地域づくり」ができることによって、3番の「坂井輪中学校区全体の地域の力を高める」、この流

れを大切にしたいと思っております。特に今回は、3世代が交流し、支え合う地域づくりを大目標にしまして、いろいろなイベントなどを、今年度できなかったものを来年度以降に進めていきたいと思っております。

坂井輪まちづくり協議会としましては、この目標に向かい、みんなで新型コロナウイルス感染症を吹き飛ばすようにぜひ頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(社会福祉協議会：鍋谷補佐)

小林委員、ありがとうございました。

70 ページ、坂井輪小学校区・小新中学校区、お願いします。

(細野委員)

坂井輪小学校区・小新中学校区でございます。よろしくお願いいたします。

この資料の計画を作成するにあたって、社会福祉協議会の加野さんとか鍋谷さんと散々、なぜ6年計画なのかと、そんな気の遠くなることをという思いで散々議論したのですが、いろいろ、この2、3か月で、私自身が多分6年くらいいるだろうという思いにかられていますので、私が担保できるという形になっておりますので、よろしくお願いいたします。

地域の特色ですけれども、高齢化率 31 パーセントということもあるのですが、歴史博物館にもあるように、西川とか大堀の沿線沿いに栄えた地域になりますので、かなり誇り高い方がずいぶんおられるなということと、新興住宅地がありますので、混在しているということが言えるかと思えます。

よいところは、隣におられます下川会長が始めましたような、まちづくり協議会や自治会や民生委員の情報共有の場を作っていて、そういう場があるということが一番良い点ではないかと思っております。33 自治会を抱えておりますけれども、中には 16 世帯とかそういう自治会もあるので、多いところは 900 世帯。ですから、格差が非常に大きいので、まちづくり協議会がやはり中心になってまとめていかないと難しいのではないかと考えております。おかげ様で、取組みについてはかなり、部会長を中心に進めていますので、いろいろな取組みができているという状況になっております。

右のページですけれども、こんなまちにしたいということで、この2、3年やってきた中で、1年くらい議論してこういう目標になっていますので、かなり、皆さんが同じ思いを共有している、そういう目指す姿になっているのではないかと思います。

目標を達成するための具体的な取組みですけれども、1番の中段に「居酒屋かつちゃん」「自治会長情報交換会」「民生委員情報交換会」で、自治会・民生委員をはじめ、地域活動に取り組む人の顔の見える関係づくりを行うとしておりまして、多分これが一番キーポイント

トではないかと考えております。あと、2番目ですけれども、もっと視野を広げて、留学生とか児童とか、世代間、国際交流を広げていこうと。協議会でしっかりとそういう思いを持っております。あとは、防災・防犯活動とか交通安全推進活動もかなり活発になっていて、特に地域の防災士との連携が進んでいて、災害に強い、安全安心なまちづくりと、そのように思って進めております。

(社会福祉協議会：鍋谷補佐)

細野委員、ありがとうございました。

72 ページ、東青山小学校区、お願いします。

(貝沢委員)

東青青山小学校区、ささえあいプラン推進委員の貝沢です。よろしくをお願いします。

うちの特徴としては、結構マンションが多くて、マンションに住んでいる人とほかの人の交流がなかなか難しくなっていて、65 歳以上の人の割合が 25 パーセントということで比較的少ないのですけれども、そうはいつてもだんだん高齢者が増えております。その中でいかに高齢者を体力をもたせて、引っ張って、家の中に閉じこもっていないで出て来てもらうにはどうしたらいいのか。それはやはり、そうしてやっていかなければいけないと思っているのですが。目標としては「明るく、安心、安全に暮らせるまち『東青山小学校区』』としました。

具体的な取組みで、「誰もが認めあい助け合うまちづくり」ということなので、各自治会のお茶の間のサロンの充実とあるのですけれども、今、コロナ禍で、実はこちらの中核としていたイオンの会場が新型コロナウイルス感染症の影響で使えなくなっていて、中核となる集まれるの場所のようなものがほしいと思って、それがやはり、東青山小学校区のコミュニティの中の一番の、集まれる、自由に集まれる場所がほしいということが一つの、一番のポイントだと思っていて、それがないと、集まれる場所はなかなか、こういうものを進めていくには難しいということなのです。

そして、「信頼でつながり、連携できるまちづくり」。これから、単に老人とかそういう人たちを、中高年の人を引っ張り出して、核となる人材を育成し、講演会とか講習会の実施をしたい。あと、何年前かに悲惨な事故があったのですけれども、そういうことを防ぐためにも、何回か、通学路の点検、避難行動とか、そういう実施をしたいと思って計画しました。

そして今年から、西川とか、健康ウォークをやりたいと思って計画しました。

あと、なかなか自治会と、民生委員とかそういう人とのつながりがないと、やりたいと思ってもできないのです。それで、民生委員だけだとやれることも限られていて、やはりいかに自治会の役員を引っ張り出して、それで情報の共有をしたいと思って、それで計画しまし

た。

(東青山小学校区コミュニティ協議会：風間会長)

今、貝沢委員から、最後に話があった民生委員と自治会長あるいはコミュニティ協議会の役員との連携強化ということが形としてはまだできておりませんので、今年は特にそれを、例えば、方向としては、会場で、会議をやるのはいいのですけれども、あるいは飲食するのはいいのですけれども、そうではなくて、民生委員の年間やっている活動の一つに、まず一緒に参加していただく、そういう形から実行に移して、そのあと反省会、要するに話し合いの反省会をやって、例えばこういう活動はどのようにしたほうがいいのか、これから地域にどのように広げたらいいかというようなことを、そういう形に今年からできればいいと思っております。

(社会福祉協議会：鍋谷補佐)

貝沢委員、風間会長、ありがとうございました。

74 ページ、五十嵐小学校区、お願いします。

(青木委員)

お願いします。五十嵐小学校推進委員の青木と申します。お世話になっております。

私たちは、まず、見ていただいて分かるとおり、字句を押さえて、すっきり分かりやすく、無理なく、現実的に取り組める目標を作りましょうということで、今回、このように作らせていただきました。7月から、やはりこういう、これだけのことを作るために10回近くの打ち合わせや会議を行いましたし、区役所、社会福祉協議会の皆様からアドバイスをいただきながら、五十嵐小学校区の地域の良い点を出していただきまして、現在、これからも続けていきたい活動を改めて真剣に考えるきっかけとなりました。そのうえで、こんなまちにしたい、そのための取組みについて決定していきましました。

その方法としては、具体的には、民児協や福祉施設関係者の方との地域懇談会を開催し、コミュニティ協議会理事会の理事の方はだいたい自治会長も兼ねているのですけれども、アンケート協力をお願いしまして、いろいろなアンケート結果をいただきまして、状況や良いところを知ることができました。それが、右側にあります目標とかこんなまちにしたい、具体的な取組みとなっています。

目標・目指す姿「明るく健康的で安心安全なみんなの住みたいまち」。これは、第1次から変わっておりません。いろいろな言い方はあると思いますけれども、私たちが1次、2次、3次、これでいこうということで、「明るく健康的で安心安全なみんなの住みたいまち」、これが究極だなということで決めました。

目標を達成するためには、「私たちが支えあい、助け合うまち」、「安心・安全に暮らせる

まち」、「防犯・防災・交通安全に取り組むまち」、「情報を発信・共有し、つながりあうまち」、これも本当にすっきりしていますけれども、本当に私たちが無理なく現実的に、そして具体的なことも、アンケートにあったものも加えながら、入れていながら、今後、2年間ごとに検証があるのですけれども、今後6年間、これを目標に、無理なく、現実的に、必ずこうできるようにという願いを込めて作成いたしました。

(五十嵐小学校区コミュニティ協議会：伊藤会長)

コミュニティ協議会会長の伊藤です。一言。

今、計画については青木委員から申し上げました。問題は、この計画というのは6年計画なのです。それで、五十嵐コミュニティ協議会の人たち、2年ごとに検証をしたり、いわゆる進捗状況を検証して、うまくいっているものと、うまくいっていないものが必ず出てくるので、それを踏まえてどうしていくか。2年ごとに自治会長あるいは関係機関の人に集まっていただいて検証を必ず行って、それからまた前へ進んでいきたいと思っております。

(社会福祉協議会：鍋谷補佐)

青木委員、伊藤会長、ありがとうございました。

76 ページ、真砂小学校区、お願いします。

(前川委員)

真砂小学校区です。

私たちは、このプランを作るために自治会長、民生委員、コミュニティ協議会の役員からアンケートを取りました。そして、そのアンケートを基に、10名の策定スタッフを選びました。年代は40歳代、50歳代、60歳代、70歳代の方が集まりました。そして、社会福祉協議会の方々からのご指導を受けながら作成いたしました。若い世代の人に作成スタッフに入っていたいたために、私たちでは考えられないような意見が出て、すごくよかったと思いました。

目標は「ひとりのために みんなのために 支えあい 安心して暮らせる地域づくり」です。それを達成するために、三つの取組みをしたいと思います。

一つ目「近隣のつながりを強化し、困ったときに頼れる地域づくり」。四つの「・」がありますけれども、そのどれもすごく、本当に言葉の一字一句まで、みんな意見をいただいて作ったものです。2番目の「民生委員や友愛訪問員等の見守りを推進する」。ここでは、友愛訪問員が各自治会全部入っておりますので、それがすごく助けになると思っておりますので、一生懸命活動していただきたいと思っております。一番大切なのは、3番目の「自治会ごとに見守りが必要な人の把握を進める」というようなことを各自治会でやっていただきたいと思っております。

2番目が「みんなが参画できる地域づくり」。子どもからお年寄りまで、全部の世代が参加できるように工夫していきたいということと、いろいろな経験をお持ち、あるいは特技をお持ちの方がたくさんおられますので、そういう人にいろいろなところで活躍していただけたらという思いがあります。

3番目「みんなで暮らしを支える情報の共有とネットワークづくり」。ここも五つあげてありますけれども、特に4番目にあります「SNSを活用し、地域活動を広く発信するしくみをつくる」。若い人がいなかったらこれが出てこなかったと思うようなことですが、データだけではなくて、データでの広報だけではなくて、SNSを使って広報していきたいという狙いがあります。

(社会福祉協議会：鍋谷補佐)

前川委員、ありがとうございました。

78 ページ、青山小学校区、お願いします。

(村井委員)

青山小学校区です。2回、会議を開きました。1回目は10月17日でしたけれども、コミュニティ協議会の3役、コミュニティ協議会の福祉部会、民生児童委員協議会、コミュニティ協議会の事務局、17人の参加者でした。2回目は11月27日にやりました。1回目のご意見を受けまして、若い人にも入ってもらおうということで、お話を聞いて、役員の方からも入ってやりました。

中身につきましてはここに書いてあるとおりですけれども、青山小学校区としては、左側の、地域で行われている主な取組みの枠の中に書いてあることが、小学校と現在行われているベースですので、このベースをしっかりとやりながら又はよくしながらできるということだと思います。

右側にいきまして、目標・目指す姿ですけれども「人と人をつながり 子どもも大人も元気な地域」ということでやっていきたいと思います。

その下ですけれども①「誰もが安心して暮らせる地域づくり」ということで、困ったときに相談し合えるとか、見守り活動や地域活動ということ意識していくということです。なお、西大通りがあって、下にいわゆる産業道路がありまして、その間、坂があるのですけれども、細い道路もあります。いろいろな問題がありまして、各地域でもどんな支援があるのかという、場所場所によって状況も違いますので、こういう考え方でいこうということです。

認知症の方やその家族が、自分らしく穏やかに暮らせるような地域づくりですけれども、会議の中でも、認知症を議題にしたわけではないのですけれども、結構、認知症の方がいますというように話をされる方がいまして、今までにない、認知症の数が顕在化しているとい



うようなことをございます。特徴としましては、非常に高齢化が増しているわけですが、実は若い人も入ってきていまして、そういう意味では、空き家も結構更地になった、そのあとで家が建って若い人が入っているという現象が起きていますので、世代間の問題もございます。最後に地域包括支援センターや社会福祉協議会、要するに、これは高齢化も進んでいますし、いろいろな問題を地域で頑張るにしても、包括支援センターとか社会福祉協議会とか区役所とか、連携を図りながらやっていかないとだめだという意味で書いてあります。

2番目が「地域活動に関わる人を増やし、活動のすそ野を広げる」。高齢者を中心に活動しているわけでありまして、先ほど言いましたように、助け合いの方にも入ってもらいたいというのが本音ですが、ではどうすればいいのかということでありまして、若い人がやっている育成協、PTA、そういう活動を、コミュニティ協議会や地域としても活動が充実するように支援するというような形を含めてやっていければいいと思います。3番目に、何としても中高年が率先して頑張るといことです。

最後に「安心・安全に暮らせる地域づくり」ということで、防災訓練、登下校、安心安全なまちでなければ安心して家から出られませんので、安心安全を守っていこうということになります。

(青山小学校区コミュニティ協議会：中藤会長)

青山小学校区、中藤です。経過については村井さんからお話がありました。個人的な、個々の町内の紹介をさせていただきたいと思います。

79 ページの「地域活動に関わる人を増やし、活動のすそ野を広げる」ということで、私が住んでいる地域なのですが、昨年、除雪機を入れましたが、なかなか雪が降らなくて利用することができなかったのですが、今年は、やっとなんかとおかしいのですが、大雪になりまして、それが活動することができました。その地域は、除雪隊のグループを作りまして、本当に、たまたま私の地域に若い人が増えたものですから、若いメンバーでグループを作ることができまして、今年、大変活動してもらいました。そういうことから、若い人を地域の活動に引き入れられたということを大変喜んでおります。また、ほかの自治会にもこの除雪機を貸し出して、雪だるまを作ったり、今年そういうことがありました。

それから、小学校のふれあいスクールが今行われておりますけれども、最初、地域の民生委員中心に始めた教室だったので、昨年からはPTAの方たちにたくさん入っていただけまして、また、こういう活動も、若い方お母さん方やお父さん方に入っていただいて、活動の場を広げることができたと大変喜んでおります。

また地域で、一つの自治会がいろいろな福祉グループを作りまして、地域の施設とか、そういうところで活動しておられることを、大変私も、先日委員会がありましたときに話を聞

きまして、本当にいい地域だと思っております。

それから、見守りですけれども、今年雪が降りまして、留守のお宅がありました。近所の方が、足跡はないけれども、電気が付くけれどもベルを押しても出て来ない、独居老人の人で、亡くなっているのではないかという心配を地域の方がいたしまして、階段の除雪をしたり、見守ったり、連絡できる場所に連絡して下さったという例がございます。私もそれをお聞きして感じたのですけれども、基本、自分がここに住んでいるだという存在を示していくことが大事なことだと思いました。

(社会福祉協議会：鍋谷補佐)

村井委員、中藤会長、ありがとうございました。

80 ページ、小針小学校区、お願いします。

(藤本委員)

小針小学校区の推進委員をしております藤本と申します。よろしく願いいたします。

80 ページ、81 ページが小針小学校区となっております。「みんなで育てよう生きる力」これを目標に、サブタイトル「このまちに住んでよかった小針」と題しまして、推進委員、メンバーとしては、町内会長、コミュニティ協議会の防犯防災の関係者、育成協の関係者、新潟医療センター、包括支援センター小針小針、民生委員、この 11 名で目標を立てております。今までとは違いましてまったく新しいメンバーですので、これからどうなるかということがはっきりしないのですが、1 番、2 番、3 番、4 番と優先順位をつけて目標を掲げております。内容を言いますと長くなりますのでお題目だけ。「未来につなぐ区地域のネットワークづくり」、2 番「すこやかな子育てを支えるまちづくり」、3 番「笑顔で助けあえるまちづくり」、4 番「安心安全に暮らせるまちづくり」ということを優先順位として掲げました。でもこれは、結局、今のところ代表者の意見ですので、これから皆さんにどのようにして発信していく、これをどのようにして知らしめていくかということが問題になっていくので、1 番にありますインターネット、これがこれからの目標だと思いますので、実は小針コミュニティ協議会が場所を移転するのです。それに伴ってインターネットを引こうかという話が出ております。やはりそれは、ペーパーだけではなくて、これからリモートとかいろいろな話が出てきますけれども、やはりその辺はコミュニティ協議会の会長を先頭にさせていただいて、そういうこともしっかり皆さんに発信していく必要があるのではないかと考えて 1 番に掲げてあります。

あと、2 番、3 番、4 番は、どこの町内会も自治会長も同じだと思いますので割愛させていただきますけれども、小針小学校区としては、ゆりかごからお墓までというように、私自身だけだと思うのか分かりませんが、そのように思っています。福祉というのは、多分、老

人、高齢者だけではないのです。子ども、生まれたときから福祉にかかわってくるわけですから、やはり生まれたときから何かそういう手当をしてあげないと、これからは高齢者を支えていく力がだんだん薄れていくのではないかと思っております。小針では、小学校のセーフティスタッフとか、そういういろいろな面で、以前、痛ましい事故がありましたので、そういうものについては本当に一生懸命です、小学校もコミュニティ協議会も。そういう中で、それが続けていければ、やはり高齢者を助けていくということが最終的になるのではないかと思っております。これは私だけの問題かもしれませんが、あとで会長からもお話を伺いますが、そういうところですけども、一つご紹介したいことがございます。

先日2月15日に、お茶の間をやっているところの交流会がありました。その中で、小針小学校の6年1組の生徒さんが、昨年からののですが、今、コロナ禍の中で、高齢者のお年寄りほどのような生活をしているのだろうかということで、お茶の間を開催している皆さんと協力して、小針小学校の生徒もこういうことになるのではないかということで、段取りを踏みまして、受付から、中の内容のゲームとかそういうことから全部子どもたちがかかわっていたのです。その中で、発表された中で、6年1組はこれで成功したかもしれない。お茶の間の皆さんが楽しく過ごしてもらえたかもしれない。でもこれは喜んでばかりはいられないと言うのです。これを続けることが大事だということで、本当に子どもはしっかりした考えを持っております。

ですから、子どもたちを育てていくのはやはり地域社会の仕組みではないかと思っておりますので、これから6年ということですけども、私が6年間やれるとは限りません。ですから、それをしっかり後継者に渡して行って、頑張り過ぎないで頑張っていきたいと思っております。会長から一言。

(小針小学校区コミュニティ協議会：岩脇会長)

私は別に意見等ございませんが、先ほど言いました地域のネットワークづくりで、今日、私はオブザーバーとして、北村さんが同席しておりますので、インターネット、Wi-Fi等について、小針コミュニティ協議会がこれをこういう形で設営したいということを少し参考に説明させてもらいたいと思います。

(小針小学校区コミュニティ協議会：北村)

今ほど紹介いただきました北村でございます。

今、世の中はコロナ禍で皆さんとの連絡がなかなか取りにくい状況です。ここでネットワークを通じて、いかにお互いの状況を把握し、また交流し合うかが大事と思っております。

今回、小針小コミュニティ協会の事務所移転に伴い、事務局にインターネット回線を用意して、通信方法はモバイルWi-Fiを考えております。事務室の活用は当然として、活用方法の事

例として、防災訓練でグラウンド会場や体育館会場での活用の他、いろいろな会議室にモバイルWi-Fiを持ち出してネットワーク環境を作れば良いと思っています。

これからは、広域連携等、地域のネットワークの活用拡大が推進できれば良いと思っています。

(社会福祉協議会：鍋谷補佐)

藤本委員、岩協会長、北村様、ありがとうございました。

82 ページ、黒埼南小学校区、お願いします。

(黒埼南ふれあい協議会：大谷会長)

黒埼南ふれあい協議会の大谷と申します。当地区の地域福祉計画の策定状況については、私からご報告させていただきます。

策定にあたっての地区懇談会は、昨年10月7日と11月9日の2回開催いたしました。懇談会の参加者は黒埼南ふれあい協議会の会長、副会長、各部長、民生児童委員など、16名の地域の方からご協力いただきました。第1回目の懇談会では、当地域のいいところ、地域でよくしたいところ、課題、今やっている取り組みなどについて率直なご意見を出していただき、そして社会福祉協議会や黒埼圏域の支え合いのしくみづくり推進員のご協力を得て、そして黒板に板書していただき、当地域の計画素案のたたき台の素案を探ってまいりました。これらの素案を基にして、社会福祉協議会から当地域における地域別計画の最終案を作成していただき、第2回目の懇談会では、最終案に対していくつかの修正、協議を行って、地域別計画の最終確認を行ったところでございます。

多くの皆さんと協議しただけに、地区別計画はうまくまとまったのではないかと考えております。

83 ページの目標・目指す姿、目標を達成するための具体的取り組みについては記載のとおりですので、ご覧いただきたいと思います。

なお、地域の特色のところの2番で、上越新幹線、北陸自動車道が通っているという記載にプラスいたしまして、今回、2月15日に新潟中央環状道路の中ノ口工区が一部開通いたしましたので、さらにとすることで、「国道8号線から中ノ口川大橋、緑と森の運動公園、黒埼南小学校を經由する茶豆ふれあいラインの幹線道路が貫通している」ということを、私どもの地域の特色として付け加えさせていただきました。

簡単ですが報告いたします。

(社会福祉協議会：鍋谷補佐)

大谷会長、ありがとうございました。

84 ページ、大野小学校区、お願いします。

(田邊委員)

大野小学校区の田邊でございます。

大野小学校区は皆さんご存じのように、昔は旧黒埼町の中心地として全体を引っ張ってきたというところがございます。現在は、ここに書いてございますように、高齢化も進んでおりまして、一人世帯、二人親のみというような時代です。立地的には、今言ったように、商店街と鳥原、小平方等農村部、いわゆる融合した地域ということでございます。大きなマンションもございませんけれども、ご存じのように空き家等が増える一方でして、若い人たちの立地、新たに新築や何かも入ってきておりまして、全体としては高齢化は 33.3 パーセントというような現状となっております。地域としてはそういうところ です。

私どもで検討しましたのは、社会福祉協議会、行政の方々に協力いただきまして、今、当まちの課題となっているもの、これを目標・目指す姿ということであげさせていただきました。「みんなが明るく楽しく安心して生活できるまちづくり」。これが一番だということでございます。そのために、今、課題となっているものをいくつか皆さんから出し合ってもらって、それを今後の目標ということで、三つに絞りました。昔は、大野のまちの中に三八の市(いち)というものがございまして、実はこれがどんどん出店者が少なくなって活気がない、まちに活気がないといったものの活気づくりの一方、買い物支援、これにかかわって、高齢化に伴う買い物支援、そういったものをどうリンクさせながら活性化できるかということで、実はこの中心となっている大野のまちの全世帯に対してアンケートを取りまして、買い物、いわゆる出張販売が来た場合に、皆さんの意見、どうでしょうかということで、全世帯にアンケートを取りました。約半数の世帯から回答をいただきまして、どんなものがほしいのか、あったら利用するかしないか等の項目、20 項目ほどの項目でアンケートを取りまして、品揃えの問題とか、商売の競合の問題とか、そういったご意見をいただきました。これを踏まえて、とりあえず3月に試験出張販売を計画しているということです。ゆくゆくは大野小学校区全体の中で、必要な個所が出てくるかどうか、そういったものを検討に入れながら、私どものコミュニティ協議会の活動の進め方を検討していこうと考えています。

また、私どもの組織は五つの部門でやっております、健康福祉部会、教育文化部会、生活環境部会、生涯学習部会、広報部会、こういう形の五つの部会でやっておりますが、肝心な防犯防災という部分が抜けている。こういった部分が、それぞれの部門で活動計画を立て合いながらいろいろ活動をやってもらっていますし、そういったものを調整するという機能も一つ必要かということも、今後、私どもの取組みとしてあるかと思っております。

先ほど申しましたように、現在、体制づくりが一番ということと、いかにして、地域ということで皆さん方が検討されているように、私どももPRやSNSの活用、こういったもの

を今後、私どもの計画の中で取り入れていくためにやっていく必要があると考えています。

(社会福祉協議会：鍋谷補佐)

田邊会長、ありがとうございました。

86 ページ、立仏小学校区、お願いします。

(鳴海委員)

立仏小学校の推進委員の鳴海と申します。よろしくお願ひしたいと思ひます。

時間もないので、ポイントだけ、大きな部分でご説明させていただきたいと思ひます。

左側のページの立仏小学校区でございますけれども、この校区は、ご承知の方もおられると思ひますけれども、山田小学校区から昔分離した小学校区でございます。私はそこで生まれましたので、私は山田小学校でございます。

そのような中で、立仏小学校については、旧集落というのでしょうか、自治会が寺地と立仏、これが旧自治会です。あとは団地です。団地と区画整理になって、全部で 15 自治会がございまして、その中で、今回のこの作成にあたりましては、私どもふれあい協議会は毎月第 1 金曜日、午前中に会議を行っているところでございまして、今回のこの資料につきまして、その中で提言させていただきました。メンバーにつきましては、各総代が 4 人おられまして、4 人プラス地域の自治協議会の委員、事務局を合わせまして 8 人で、あとは社会福祉協議会にお願ひしまして、この資料を作らせていただいたところでございます。

内容につきましては、右側なのですけれども、一番上に「幸せを感じる思いやりのあるまちづくり」ということで、これを目標に掲げさせていただいて、記載しております四つの項目で進めていくということにさせていただきました。

それで、問題は、このように作ったのですが、どのようにこれを実現していくかという話を毎回、ここに書いてありますように話がございまして、私どもは、今まで会議を、ふれあい協議会を設置してから同じメンバーで毎年やっていたのですが、今回、これらを実現していくためにはこのメンバーでいいのだろうかという議論が生まれて、今、進めてきたのでございます。これは全部文書で確定しておりませんが、ほぼ決まりであります。4 月からメンバーをプラスしてやって、この課題について検証していきたいと思ひています。

プラスするメンバーは、今まで民生委員が入っていなかったものですか、民生委員協議会にお願ひしまして、立仏小学校区の民生委員の中で代表を決めていただいて、うちのメンバーに入らせていただいて議論していただく。それが 1 名。

それから、これはよそのコミュニティ協議会ではあまりないのですが、中にはご承知の名前がありますが、学校には教育コーディネーターがおられます。教育コーディネーターは、地域と連携して活動しておりますけれども、私どもふれあい協議会のメンバーとしては、学

校と密接になって連携をする方が、今のところそういう方がおられませんので、地域の方と  
いろいろ検討いたしまして、名前を決めました。名前を決めたのは、担当の地域課の方など  
にいろいろ検討していただいて、いい名前はないかということです。今、決めていただいた  
のがございます。いい案をいただきまして、地域と学校ふれあいコーディネーターというの  
を検討いただいて、もうメンバーが決まっています。学校と密に連絡しているということで、  
その方を1名プラスしたところがございます。それから、学校をお願いいたしまして、コー  
ディネーターさん3名、女性ですけれどもプラスして、今、検討していただいている内容を  
やっていく。

基本的に、この話をしていく中で、やはり、皆さんどこもそうですけれども、住みよいま  
ち、安心安全なまち、長く住みたいと思うには、やはり校外学習が基本だと思います。その  
ような中で、子どもたち、小学校、子どもたちと住民、高齢者も増えていますが、その  
ような中で、学校、児童委員さんを含めていかないと、なかなか、話し合っ、このよう  
にしたいということはいいのですけれども、ではどう実現していくかということが課題です  
ので、一番、課題のところ、実現するために一つを取り上げてやっていくには、やはりみん  
なで集まってやっていくのが一番、やっていかないといけないのではないかと思います。

私どもは大きなコミュニティがありまして、当初から災害部門を設けてやっています。3  
年に1回、大きな災害を想定して訓練をしておりますけれども、毎年、人数が増えています。  
3年に1回ですけれども、1回やると600人ほど集まって、15自治会全体で、住民で災害  
訓練を行うというような形で続けております。

それから、子どもたちがあまり来ないので、子ども同士のイベントで、学校担当にお願  
いいたしまして、子ども中心にそういう訓練を行っております。今年はコロナ禍の関係で中止  
しましたが、来年は、話し合っ、ぜひやろうとということで話をしている中で、コロナ禍  
の中でどう対応していくかという話も踏まえて、ぜひやりたいと思っております。

時間もないので終わりたいと思いますが、実現しないと意味がないので、その中で、実現  
するような形で、今、取組みを行っております。

(社会福祉協議会：鍋谷補佐)

鳴海委員、ありがとうございました。

88 ページ、山田小学校区、お願いします。

(阿部委員)

山田小学校区の阿部です。よろしくお願いします。

山田小学校区としては、目標が「誰もが安心して暮らせる思いやりのある地域づくり」を  
テーマにして考えました。いろいろ出ましたけれども、何をやるか、本当にやれるのか、前

回の第2次策定のときも、これは策定であるけれども、一体どうなったのというのが全然できていませんでした。とりあえず、今回も作ってみて、この中で何か一つ、それでも何か少しでも進歩があればいいなという形で、②にあります「子育て世代が孤立せず」、この辺とか、一人暮らしがだんだん多くなっていくので、その辺も無難に、あるいは地域での点検で、なるべく、その人が今どうしているのか、よく、知らないうちにどこかに行っていたとか、空き家になってしまったということが結構ありますので、その辺をなくすように地域の方と連携していく。

また、この山田小学校区自体、コミュニティ協議会自体が、大きなイベントなり、行事自体、あまりないものですから、やはり何かやって、山田小学校区の方々とつながっていきたいと思って、そういう思いで今回の計画を立てました。

(社会福祉協議会：鍋谷補佐)

阿部委員、ありがとうございました。

発表をしてくださった皆様、ありがとうございました。たくさんの方の思いが込められた、すばらしい地域ごとの計画が作成されたと思います。最新の取組み情報ですとか、早速、ここからこういうことをしようと思っているというような決意表明を聞かれまして、皆様の熱さが伝わってきました。これから連携、協力して進めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

以上で地域別計画の発表を終わります。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。皆様、発表をありがとうございます。皆様の発表をお聞きしながら思ったこととか、書き留めていたのですけれども、字で真っ赤になってしまいました。すべてのお話をご紹介する時間はありませんけれども、一つ、例としてお話させていただこうと思うのですが、真砂小学校区の学生の協力でデジタルコミュニケーションの仕方を学ぶということがあったので、少し思ったのですけれども、私は大学に勤めていますので、学生がこの1年間、オンライン授業でいかに苦勞して、結構精神を病んできた学生もいる中で、すごく苦勞してきたのです。その苦勞を地域のために生かそうというようなアイデアが出たということがすごく嬉しくて、それ自体が学生の活力にもなるし、地域のためにもなると思いました。このように、苦勞をほかの人のために生かすという大義を作るということ自体が、支え合いのしくみづくりのすごく大きなヒントになると思いましたので、一つここにご紹介させていただきました。

皆様、全体にこのお話を伺っていて、プランの作成にはすごく時間も使われたでしょうし、すごくご尽力いただいて大変なご苦勞をされたと思うのですけれども、話し合い、作成のプ



ロセス自体が、すごく大きな成果、支え合いの成果の一つなのだとすることもすごく思いました。たくさんアイデアと、今後の希望が持てるお話をいただきまして、誠にありがとうございました。

次の議事に移らせていただきたいと思います。議題（５）「地域福祉計画の周知について」、事務局、お願いいたします。

（事務局：小林係長）

ご説明させていただきます。

資料２－１の冊子詳細版の 29 ページをご覧ください。こちらは、福祉総務課が行った「新潟市の地域福祉に関するアンケート調査」の結果の一部抜粋版でございます。

問 1 におきまして、地域福祉計画・地域福祉活動計画の認知状況をあらわしております。結果は、市全体、西区ともに「知っている」が 25 パーセント程度で、7 割強の方は「知らない」と回答しております。11 月に開催いたしましたコミュニティ協議会会長様との素案説明の折にも計画の周知についてのご意見もいただきました。

私どもも本プランの周知を図るために、計画の冊子のほかに資料２－２の概要版、そして資料２－３の A 3 簡易版も合わせて作成いたしまして、その場に応じた周知を図ってまいりたいと思います。地域の方々に地域福祉計画とはどういうことかということを広めていきたいと思っております。

続きまして、資料２－２「概要版」と書かれたものをご覧ください。こちらは、地域福祉計画や地域福祉活動計画についての概要と、合わせて、すべての校区の計画を掲載しております。内容につきましては、先ほどの資料２－１の冊子詳細版と重複しておりますので割愛させていただきます。

続きまして、資料２－３「A 3 簡易版」をご覧ください。こちらは、今ほどの資料２－２の概要版をさらにコンパクトにまとめたものでございます。表面は概要版のページを抜粋したのですが、裏面には地域別計画を 1 校区分のみ掲載しております。資料では西内野小学校区としておりますが、これをそれぞれの校区分 15 種類作成する予定でございます。

これらの冊子の完成は 3 月末ごろの予定となっており、冊子ができましたら、それぞれのコミュニティ協議会様には冊子詳細版を 3 冊、概要版を 10 冊、A 3 簡易版を 30 枚、推進委員の皆様には、詳細版、概要版を各 1 冊、お渡しさせていただく予定です。また、各自治会長様宛てには概要版を 1 部配布するほか、自治会回覧用として、その自治会の校区の A 3 簡易版を同封する予定です。また、コミュニティ協議会様の中にはコミ協だよりに掲載される地区もあると伺っておりますが、重複することもあると思いますが、区といたしましても、積極的に周知してまいりたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。そのほか、西

区だよりやホームページへの掲載なども行い、計画の認知度を上げるよう努力してまいりたいと思います。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。皆様から、何かご質問、ご意見はございますでしょうか。梶原会長、お願いいたします。

(坂井輪中学校区まちづくり協議会：梶原会長)

梶原です。坂井輪中学校区まちづくり協議会の会長として、質問といえますか確認したいのですが、社会福祉協議会のほうで、この評価といえますか、これを毎年、地区別の懇談会を開催して、評価を含めてやっていこうというようになっていると思うのです。区のほうで、このような、いろいろな情報交換は非常にいいと思うのです。こういうものを、全体の評価会的なものを、コミュニティ協議会対象の交流会というものを毎年やるような計画はあるのでしょうか。それをお聞きしたいのです。

(事務局：小林係長)

ご質問ありがとうございます。区の計画についても評価の会議を持つかというところでしょうか。

(坂井輪中学校区まちづくり協議会：梶原会長)

地区別の懇談会をやりますと。評価がどうなっていますかと。先ほど伊藤さんからも話があったのです。やはり、みんなのものにするためにはそれをやらなければならないと思うのです。区全体の区計画がありますが、こういうものに対しての全体の評価も含めた、情報交換も含めたことをやる計画はあるのでしょうか。

(事務局：小林係長)

ありがとうございます。行政計画の部分につきましては、毎年推進委員会の場で評価、進捗状況の確認をさせていただき、今までもしてきましたし、今後もそのように考えております。

(坂井輪中学校区まちづくり協議会：梶原会長)

私が懸念するのは、第2次計画まではそれでよかったと思うのです。ただし、今回、なぜ全部を集めてやったかということなのです。それを、地域住民のためのものなのだという掛け声でやってきたわけです。それも短期間で。5か月しかなかったのです。それを、各地域、15地域で、聞きましたら3回やっています。45回、全部動いているのです、みんなが。それだけ熱心にやってきたと思います。そうすると、やはりこのように、ただ推進委員だけの問題ではなくて、そこに、例えば地域活動の代表であるコミュニティ会長が出るとか、そのほかにほかの地区に出るとかして、情報交換も含めた、意見交換の場でもいいのですけれど

も、それをやるべきではないかと思うのです。

推進委員の皆さんは、たしかに一生懸命頑張ってもらっていますけれども、その推進委員の皆さんに、地域に帰って全部話をしてくださいと言ってもなかなかうまく伝わっていかないのではないかと思うのです。ですからそれは、第2次のことを踏まえて、第3次計画については、毎年、屋上屋かも分かりませんが、コミュニティ協議会の代表者もいるわけですから、いろいろな情報交換、例えば五十嵐小学校区コミュニティ協議会さんもおっしゃっていましたが、うちは2年に1回、自分たちで自らやると言っています。そういういろいろな情報が入るわけです。ですから、そういうものをして、西区全体で推進していったらどうかと思うのですが、いかがでしょうか。

(事務局：渡部課長)

梶原会長さん、ご意見ありがとうございました。今おっしゃったこと、もっともでございます。今日もこういう形で確定版ということで、各会長と推進委員の方々、皆さん一同にお集まりいただいています。この場で行政計画、この部分につきましても、せっかくこのように会を設けさせていただきましたので、そういうことの実施に向けて私どもも考えて参りたいと思います。よろしく願いいたします。

(五十嵐委員長)

ありがとうございました。ほかにご意見、ご質問はございますか。

(意見・質問なし)

ありがとうございました。本日の議題は以上となります。少し時間が伸びてしまいましたが、ご協力いただき、ありがとうございました。司会にお返しいたします。

(司 会)

五十嵐委員長、議事進行をありがとうございました。

続きまして、次第5「その他」になります。住民アンケートについて、担当よりご説明いたします。

(事務局：須貝主査)

西区健康福祉課の須貝です。こちらについては私からご説明させていただきます。資料は特にごいません。説明のみとなります。

以前にもお知らせさせていただきましたが、西区民に対するアンケート調査をこのたび実施させていただきました。調査の内容は、「新型コロナウイルス禍による日常生活や地域福祉への影響に関するアンケート調査」で、対象年代は満18歳以上の西区民の男女を無作為抽出とし、対象人数は3,000人で、五つの日常生活圏域別に抽出いたしました。調査期間は令和3年1月15日から令和3年1月31日の期間で行い、現在はその集計作業を委託業者が

行っております。回収につきましては、現在、有効回答数は 1,578 件で、回収率は 52.6 パーセントでした。こちらのアンケート調査に対して、設問についてのご質問はほとんどなく、これもひとえにアンケート作成にあたり、皆様からご意見をいただき、内容を推敲して完成させたおかげだと考えております。大変ありがとうございました。

今後は、委託業者の集計作業が終わり次第、報告内容を確認し、皆様に結果をお配りさせていただきます。地域の関係者の方との意見交換についても検討してまいりますので、詳細が決まりましたらご案内させていただきます。

説明は以上です。

(司 会)

今ほどの説明にご意見、ご質問等はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは次第6「西区社会福祉協議会会長より閉会のごあいさつ」をお願いいたします。

(社会福祉協議会：梶原会長)

皆さん、大変お疲れ様でございました。社会福祉協議会の梶原です。ごあいさつさせていただきます。

今、いろいろな話を、具体例などもお聞きしましたけれども、もう一回、よく見ていたのです。そうしましたら、コンセプト、だれもが認めあう、助け合う、つながる、参加できる、そして健やかに安心して暮らせるまちづくり、それが基本目標になっています。この支え合いのプラン、第3次ということで、このコロナ禍の中で、たった5か月くらいしかなかったと思うのです、計画が決まるまでに。15 地域で本当に、計算しましたら、地区別の計画を、45 回なのです、単純に計算しますと。45 回も、本当に、この福祉におられます皆さん方と一緒にあって、私どもが、自分たちの計画だということで、汗をかいてきたと思います。改めて感謝したいと思います。

この計画は、今、まちづくり協議会の会長として手を貸してもらったのですけれども、1年ごとに、今度、社会福祉協議会では地区別の懇談会をやりまして、やはり強力なものを作って行くのだということでございます。私どもの自らの計画ですから、本当に真摯に受け止めて、一緒になって、反省も含めて、地区ごとに見直しをしていって、6年間、できましたら続けていってもらえるとありがたいと思います。

昨日の新聞で新潟市の目標が出ていました。選ばれる、そして暮らしやすい新潟市となっていますけれども、まずは私どもは、選ばれる西区、暮らしやすい西区、西区はアンケートの1番、第1位でございますので、暮らしやすいまち、それを6年間、維持していきたいと思っています。ワンチームで、一つになって頑張っていきましょう。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(司 会)

梶原会長、ありがとうございました。

以上をもちまして、令和2年度第3回いきいき西区ささえあいプラン推進委員会を終了いたします。